

防災減災学術連携委員会（第24期・第7回）

議事要旨

日 時：令和元年6月13日（木）12:50～17:45

会 場：日本学術会議 講堂

出席者： 米田雅子委員長、田村和夫幹事、目黒公郎幹事、植松光夫委員、畝本恭子委員、木村学委員、寶馨委員、武内和彦委員、中村尚委員、平田直委員、森口祐一委員、安村誠司委員、山本あい子委員、依田照彦委員、和田章委員（15名）

欠席者： 三木浩一副委員長、大西隆委員、小池俊雄委員、斉藤大樹委員、吉原直樹委員（5名）

参考人： 海堀安喜氏（内閣府政策統括官（防災担当））

代理 米澤 健氏（内閣府 大臣官房審議官（防災担当））

佐谷説子氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））

<その他の出席者>

日本学術会議：小松利光氏、永野正行氏

府省庁関係：内閣府防災担当：諸留 逸氏・西山直人氏、

内閣官房国土強靱化推進室：若尾将徳氏・相馬克弘氏・海老沼ちひろ氏、

文部科学省地震・防災研究課：山田 豊氏、

厚生労働省大臣官房厚生科学課 健康危機管理課・災害対策室：唐木啓介氏、

厚生労働省医政局地域医療計画課：西田 翼氏、

国土交通省国土地理院：中島秀敏氏、

産業技術総合研究所 地質調査総合センター：今西和俊氏・伊藤順一氏

学会関係：

防災学術連携体参加学会：古谷誠章代表幹事（日本建築学会）、小井土雄一副代表幹事（日本災害医学会）、以下、各学会の防災連携委員（含：代理出席者）、および発表者：

横断型基幹科学技術研究団体連合：出口光一郎氏・三浦伸也氏、環境システム制御学会：

飛川昌也氏、計測自動制御学会：榎木哲夫氏・結城義敬氏、水文・水資源学会：西岡

昌秋氏、ダム工学会：池田 茂氏、地盤工学会：小高猛司氏・樋口俊一氏、地域安全学会：

田中 聡氏・池内淳子氏、地理情報システム学会：山本佳世子氏、土木学会：

塚田幸広氏・清田 隆氏・竹林洋史氏、日本応用地質学会：向山 栄氏、日本海洋学

会：丹羽淑博氏、日本火山学会：吉本充宏氏・石峯康浩氏、日本風工学会：松井正宏

氏、日本看護系学会協議会：山本あい子氏（兼）、日本気象学会：瀬上哲秀氏、日本

救急医学会：中川 隆氏、日本計画行政学会：山本佳世子氏（兼）、

日本建築学会：小野寺篤氏・日比野陽氏、日本公衆衛生学会：安村誠司氏（兼）、日本コンクリート工学会：山本武志氏、日本災害医学会：近藤久禎氏・近藤祐史氏、日本災害看護学会：山本あい子氏（兼）・神原咲子氏・斎藤正子氏、日本災害復興学会：中林一樹氏、日本自然災害学会：高橋和雄氏・小林健一郎氏、日本社会学会：浦野正樹氏、日本森林学会：玉井幸治氏、日本地震学会：吾妻 崇氏、日本地震工学会：楯田素子氏、日本第四紀学会：吾妻 崇氏（兼）、日本地域経済学会：山川充夫氏、日本惑星科学連合：川畑大作氏、日本地質学会：斎藤 眞氏・松田達生氏、日本地図学会：宇根 寛氏、日本水環境学会：秋葉道宏氏・鎌田素之氏、日本リモートセンシング学会：伊東明彦氏、廃棄物資源循環学会：早田輝信氏

その他当日参加者：21名

事務局：高谷剛審議専門職、大澤祐騎審議専門職付

議 題：1) 前回議事要旨の確認

2) 第8回防災学術連携シンポジウム企画案について

以下、第2回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」－災害時医療と理工学分野の連携－、として開催

3) 開会挨拶と趣旨説明

4) 出席者の紹介

5) 災害医療関係の学会から問題提起

6) 理工学分野の学会からの情報提供

7) 関係府省庁と学協会との意見交換

8) 日本学術会議、府省庁、防災学術連携体の構成学会からのお知らせ

9) 閉会挨拶

< 資料 >

資料1 前回（第6回）議事要旨

資料2 第8回防災学術連携シンポジウム企画案

資料3 防災減災学術連携委員会（第24期・第6回）会場案内図、出席者リスト

資料4 プログラムと各学会からの発表資料

資料5 災害拠点病院の電気、水の確保に関して

資料6 防災地理情報の活用について

資料7 ISUT の取組みについて

資料8 防災基本計画修正（令和元年5月）の概要

資料9 国土強靱化の取組みについて

議 事：

1) 前回議事要旨の確認

- ・田村幹事より資料1に基づき前回議事要旨の説明が行われ、確認された。

2) 第8回防災学術連携シンポジウム企画案について

- ・田村幹事より資料2に基づき、防災推進国民大会2019のセッションに応募している、シンポジウム企画案「あなたが知りたい防災科学の最前線 ～激化する気象災害に備える」について説明があり、防災学術連携体とともに本委員会で主催することが承認された。

以下<第2回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」－災害時医療と理工学分野の連携－>

3) 開会挨拶と趣旨説明

- ・米田雅子委員長より、連絡会の開催までの経緯説明と挨拶があった。
- ・防災学術連携体副代表幹事の小井土雄一氏より、趣旨説明があり、災害時医療の課題と理工学分野、府省庁との連携に向けた会としたい旨の話があった。
- ・内閣府の米澤健大臣官房審議官より、本会開催に向けての挨拶があった。

4) 出席者の紹介

- ・田村幹事より、資料3に基づき、出席者の名前を読み上げ紹介された。

5) 災害医療関係の学会から問題提起

各学会より以下の発表があった

- ・日本災害医学会
災害時の医療活動と課題 近藤久禎氏
SIPが災害医療にもたらした変化 近藤祐史氏
- ・日本災害看護学会
災害時の看護活動と課題 神原咲子氏
学会認証に向けての「まちの減災ナース指導者」
養成研修の実際と今後の課題 斎藤正子氏（小原真理子氏）
- ・日本水環境学会
災害時の医療施設における給水確保のための
ソフト・ハード対策の推進 秋葉道宏氏

6) 理工学分野の学会からの情報提供

各学会より以下の発表があった

- ・日本建築学会
建築施設の被災状況とモニタリング 日比野陽氏
- ・地盤工学会
医療施設・道路・ライフラインの液状化対策 小高猛司氏
- ・地域安全学会

- | | | |
|------------|--|--------|
| | 病院防災力診断システムと使用継続判断システム、 災害研修プログラム | 池内淳子氏 |
| ・ 日本地震工学会 | 医療施設におけるライフライン機能確保 | 楢田泰子氏 |
| ・ 土木学会 | リアルタイム洪水・土砂災害 ハザードマップと災害医療への適用 | 竹林洋史氏 |
| ・ 日本地図学会 | 災害対応と地理空間情報 ～防災サイクルにおける 地理空間情報の役割を考える～ | 宇根 寛氏 |
| ・ 日本自然災害学会 | スパコンを用いた浸水計算と避難誘導への活用 | 小林健一郎氏 |
| ・ 計測自動制御学会 | 災害時医療の課題に対応できる技術や方法 被災者の発見・救助に貢献するロボット技術の研究開発 | 榎木哲夫氏 |

7) 関係府省庁と学協会との意見交換

8) 日本学術会議、府省庁、防災学術連携体の構成学会からのお知らせ

米田委員長がコーディネーターとなり、議題の7)と8)を合わせて、意見交換が進められた。

最初に、府省庁からの情報提供として、以下の発表があった。

- | | | |
|--------------------------------|---------------------|-------|
| ・ 厚生労働省医政局地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 | 災害拠点病院の電気、水の確保に関して | 西田翼氏 |
| ・ 国土地理院 応用地理部 | 防災地理情報の活用について | 中島秀敏氏 |
| ・ 内閣府政策統括官（防災担当）防災計画担当 | ISUT の取組みについて | 西山直人氏 |
| | 防災基本計画修正（令和元年5月）の概要 | 〃 |
| ・ 内閣官房 国土強靱化推進室 | 国土強靱化の取組について | 若尾将徳氏 |

次に、米田委員長、山本あい子委員、小井土雄一氏、近藤久禎氏、神原咲子氏が登壇され、会場の参加者と共に、以下の内容の意見交換が行われた。

<医療施設の安全性に関して>

- ・ 早期対応が可能なように地域の建築構造関係者との協定を進めておくと良い。
- ・ 災害時にインフラや資材関係の対応などで、病院を優先するような仕組みが欲しい。
- ・ 燃料補給では災害拠点が優先されている。

<ライフラインに関して>

- ・水の確保が最も遅れている。
- ・水について、飲み水と一定の衛生度を確保した一般の水とを分けるとよい。
- ・水処理として、地下水利用型の専用水道は利用できる。
- ・透析用の水の確保は重要。
- ・貯水槽の容量を増やして、長期の断水に耐えられるようにすると、常時において新鮮な水が使われるまでの滞留時間も同時に延びてしまい、水質の劣化が問題になるなど難しい。フィルターなどの技術が必要である。
- ・貯水槽には汚水が入ることもある。膜処理技術などを使う方法も考えられる。
- ・災害拠点病院では自前で水を確保できるように井戸水を整備していくようにすると良い。

<各種の情報活用に関して>

- ・長期的には、災害リスクの少ないところに病院を建てることを考えていくべき。
- ・南海トラフによる津波等の危険区域に病院があって移転すべきと思われるものもある。
- ・情報に関する各種の有力なツールの活用法、情報共有の方法を考える必要がある。
- ・ISUTのようなものを用いて人材を育成することが重要。防災学術連携体の役割でもある。
- ・ソーシャルメディアの活用も有効。
- ・SIP でつくった枠組み・技術（SIP4D）を活用して、自治体・民間と連携した意思決定へとつなげることが必要。SIP4D は省庁の縦割りを越えた活動としての意義がある。
- ・人間が重要。人材育成に力を入れるべき。
- ・人間の密度は各種センサーと比べても高く、万能なセンサーとして活用できる。

<今後の活動について>

- ・人文社会系の学会の参加を促すためにも、2021年3月頃に、東日本大震災10年目のシンポジウム企画を考えて欲しい。人文社会系は、リアルタイムで動きにくい、アーカイブや教訓など、時間をかけて検証することが多いため、早めに十年企画を出して欲しい。

8) 閉会挨拶

- ・目黒公郎 防災減災学術連携委員会幹事より、閉会の挨拶があった。

以上